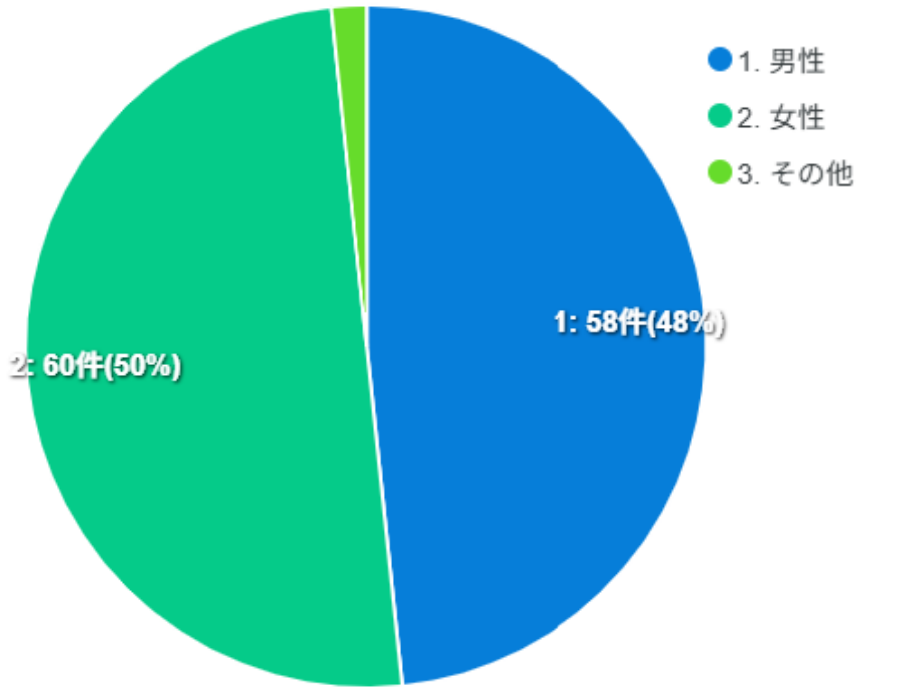
令和７年度第６回ネットモニターアンケート結果（福祉に関するアンケート）

〇アンケートテーマ	福祉に関するアンケート
〇対象者	おみたまネットモニター登録者　３６５人
〇回答期間	令和７年１２月３日～令和７年１２月１７日
〇回答者数	１２０人
〇回答率	３２．９％

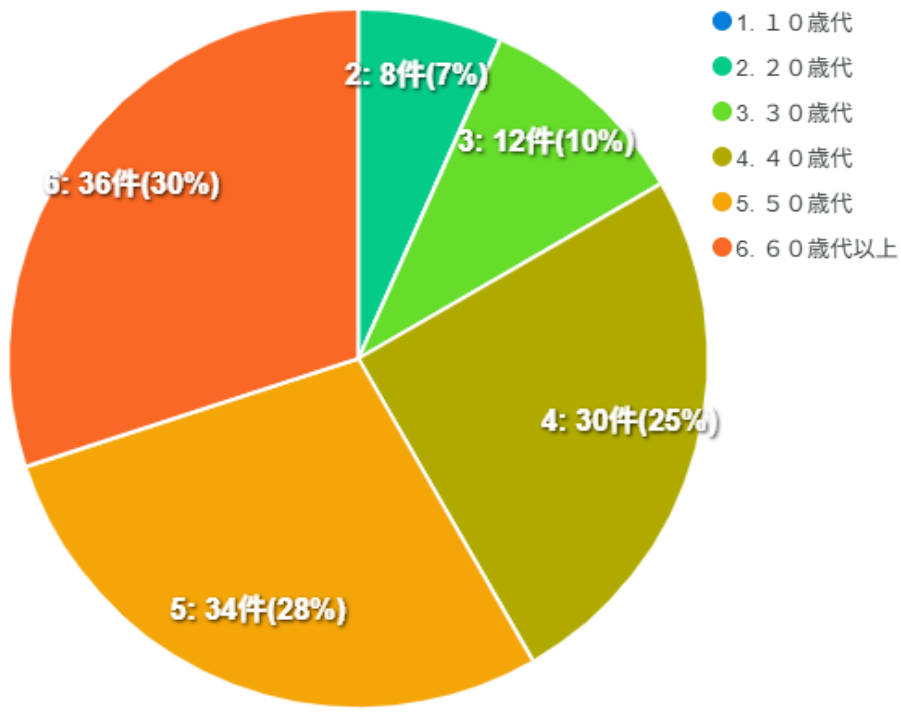
Ｑ１．性別

項目	人数	割合
男性	５８	４８％
女性	６０	５０％
その他	２	２％



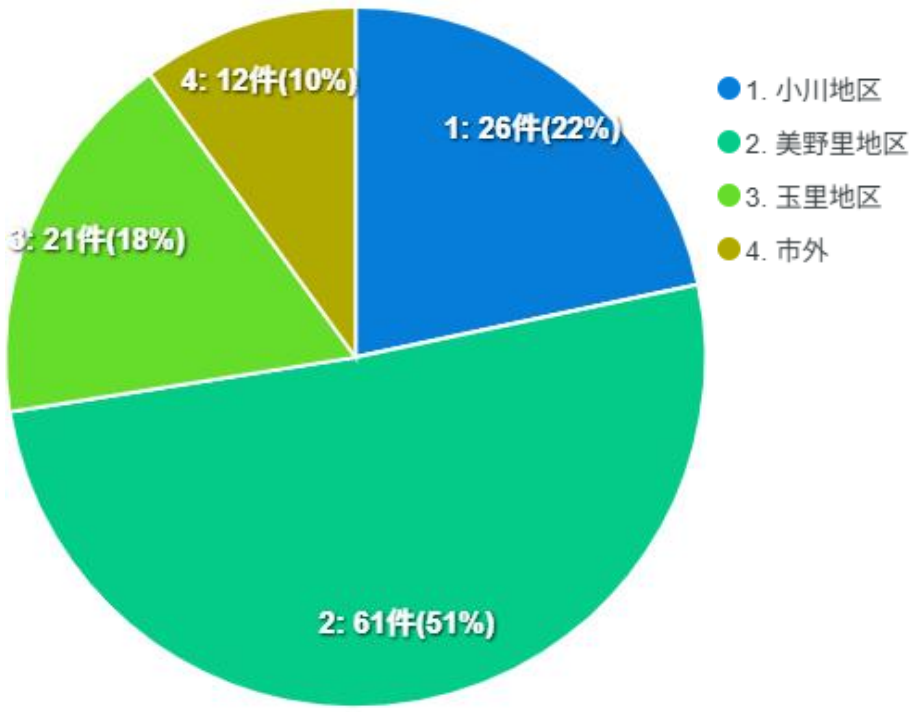
Ｑ２．年代

項目	人数	割合
１０歳代	０	０％
２０歳代	８	７％
３０歳代	１５	１３％
４０歳代	２３	１９％
５０歳代	３９	３３％
６０歳代以上	２１	１８％



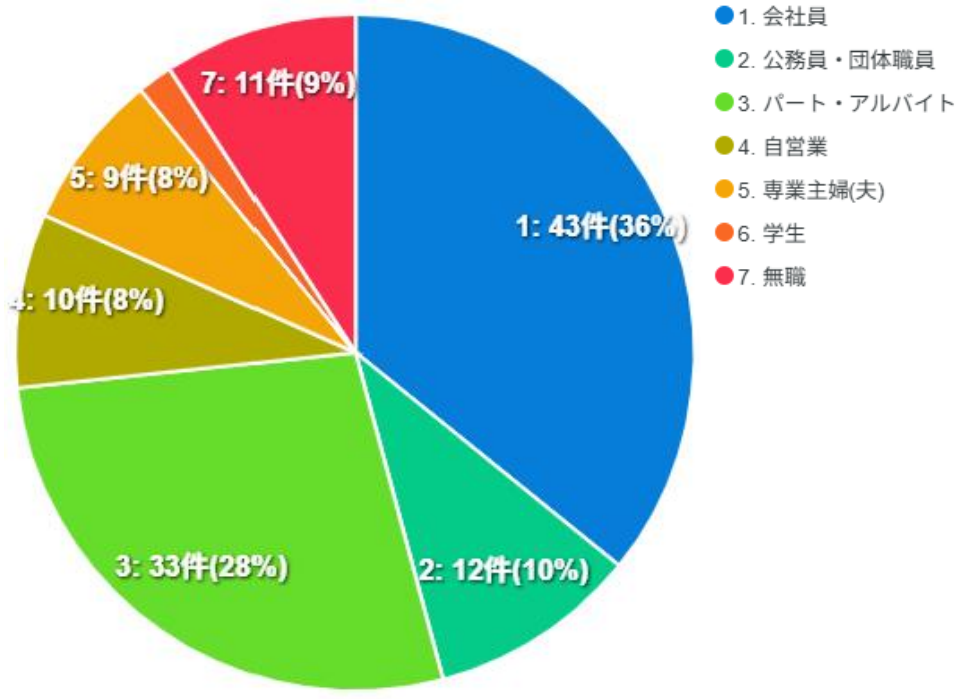
Ｑ３．お住いの地区

項目	人数	割合
小川地区	２６	２２％
美野里地区	６１	５１％
玉里地区	２１	１８％
市外	１２	１０％



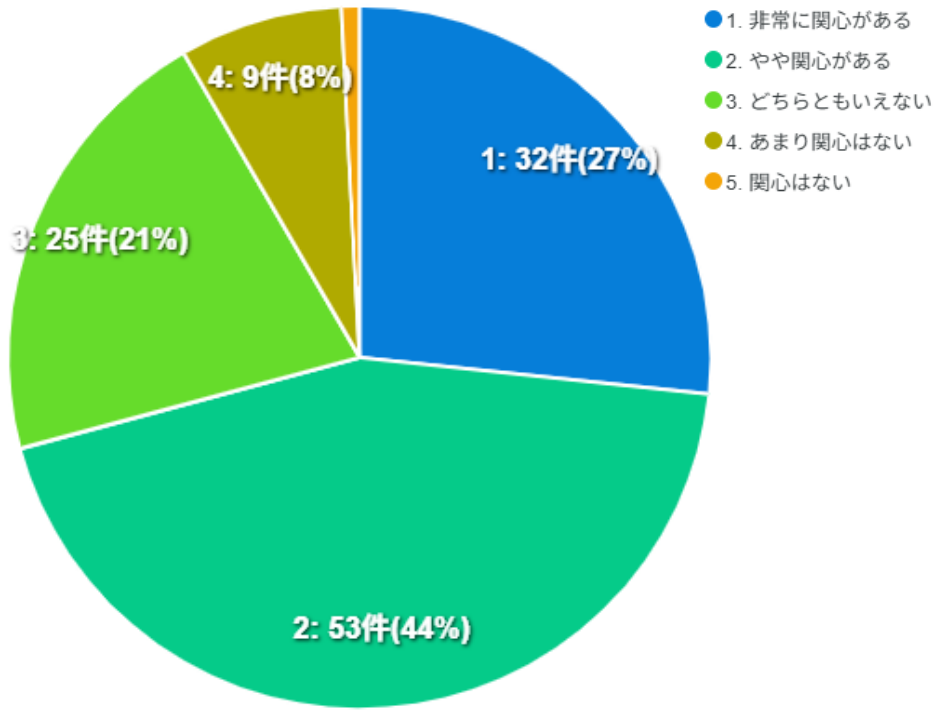
Q４．職業

項目	人数	割合
会社員	４３	３６％
公務員・団体職員	１２	１０％
パート・アルバイト	３３	２８％
自営業	１０	８％
専業主婦（夫）	９	８％
学生	２	１％
無職	１１	９％



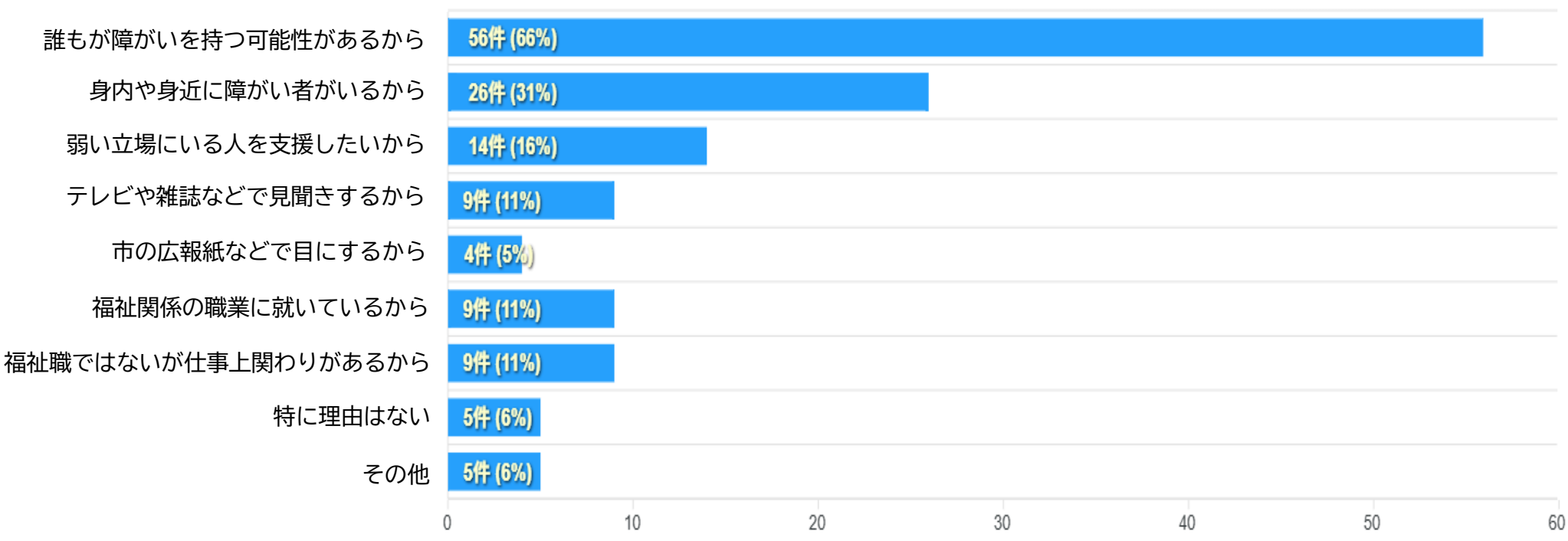
Q５．あなたは、障がいのある人の福祉や施策などに関心を持っていますか。

項目	人数	割合
非常に関心がある	３２	２７％
やや関心がある	５３	４４％
どちらともいえない	２５	２１％
あまり関心はない	９	８％
関心はない	１	１％



Q６．どのような理由から関心を持ちましたか。（複数回答可）

項目	人数	割合
誰もが障がいを持つ可能性があるから	５６	６６％
身内や身近に障がい者がいるから	２６	３１％
弱い立場にいる人を支援したいから	１４	１４％
テレビや雑誌などで見聞きするから	９	９％
市の広報紙などで目にするから	４	４％
福祉関係の職業に就いているから	９	１１％
福祉職ではないが仕事上関わりがあるから	９	１１％
特に理由はない	５	６％
その他	５	６％



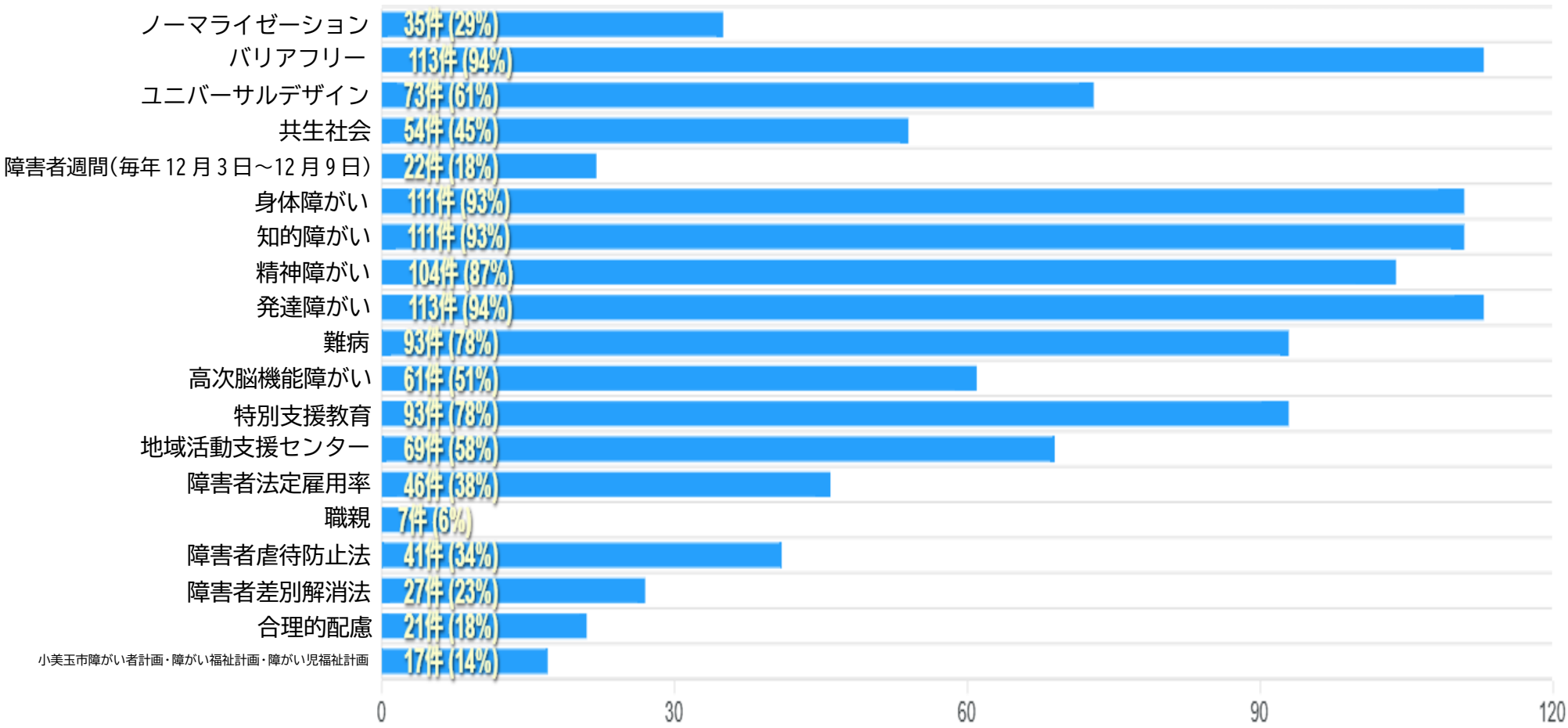
その他の回答

精神保健福祉士の資格を持っているから
長い間福祉行政に携わっていたから
医療関係で働いているため
自分が病気になってしまったから。
自分も杖を使って歩いているため

Q７．あなたは今までに障がいに関連のある次の言葉を聞いたことがありますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
ノーマライゼーション	３５	２９％
バリアフリー	１１３	９４％
ユニバーサルデザイン	７３	６１％
共生社会	５４	４５％
障害者週間（毎年 12 月 3 日～12 月 9 日）	２２	１８％
身体障がい	１１１	９３％
知的障がい	１１１	９３％
精神障がい	１０４	８７％
発達障がい	１１３	５１％

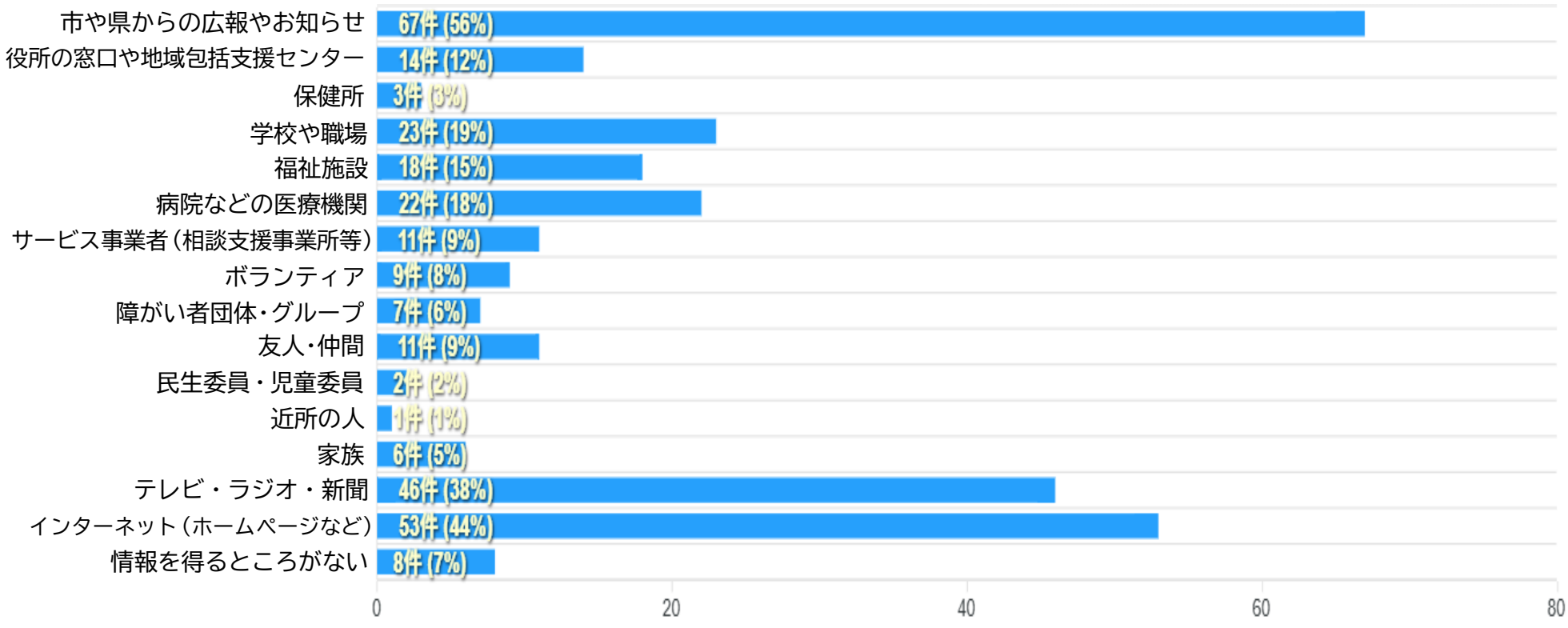
項目	人数	割合
難病	９３	７８％
高次脳機能障がい	６１	５１％
特別支援教育	９３	７８％
地域活動支援センター	６９	５８％
障害者法定雇用率	４６	３８％
職親	7	6％
障害者虐待防止法	４１	３４％
障害者差別解消法	２７	２３％
合理的配慮	２１	１８％
小美玉市障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画	１７	１４％



Q８．あなたは、福祉に関する情報をどこから入手していますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
市や県からの広報やお知らせ	６７	５６％
役所の窓口や地域包括支援センター	１４	１２％
保健所	３	３％
学校や職場	２３	１９％
福祉施設	１８	１５％
病院などの医療機関	２２	１８％
サービス事業者（相談支援事業所等）	１１	９％
ボランティア	９	８％

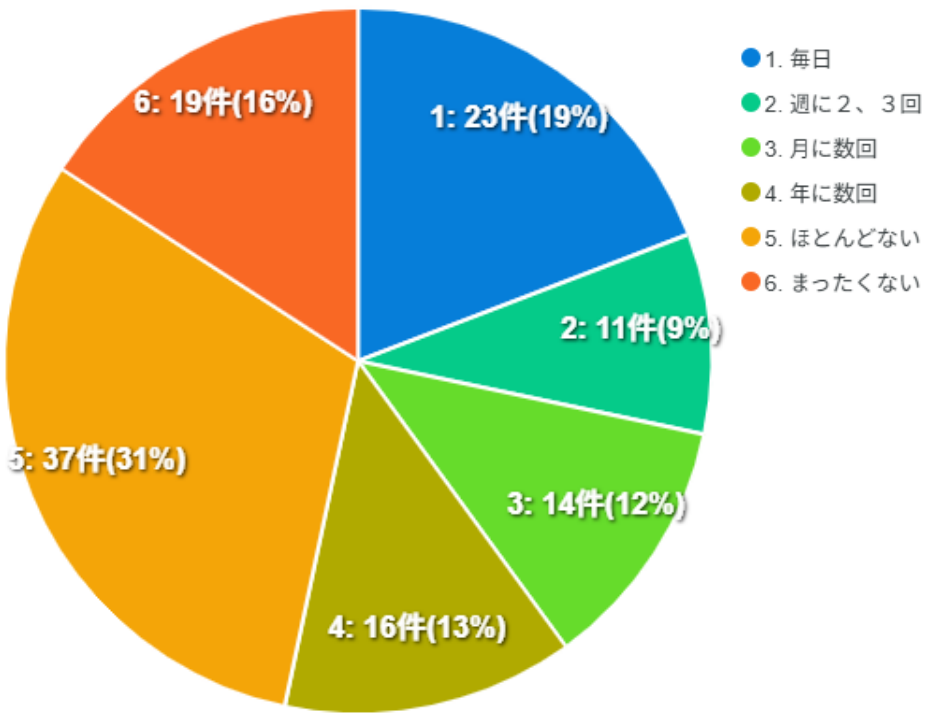
項目	人数	割合
障がい者団体・グループ	7	6％
友人・仲間	１１	９％
民生委員・児童委員	２	２％
近所の人	１	１％
家族	６	５％
テレビ・ラジオ・新聞	４６	３８％
インターネット（ホームページなど）	５３	４４％
情報を得るところがない	８	７％



障がい者との交流について、おたずねします。

Ｑ９．あなたは、障がいのある人と接する機会がどのくらいありますか。

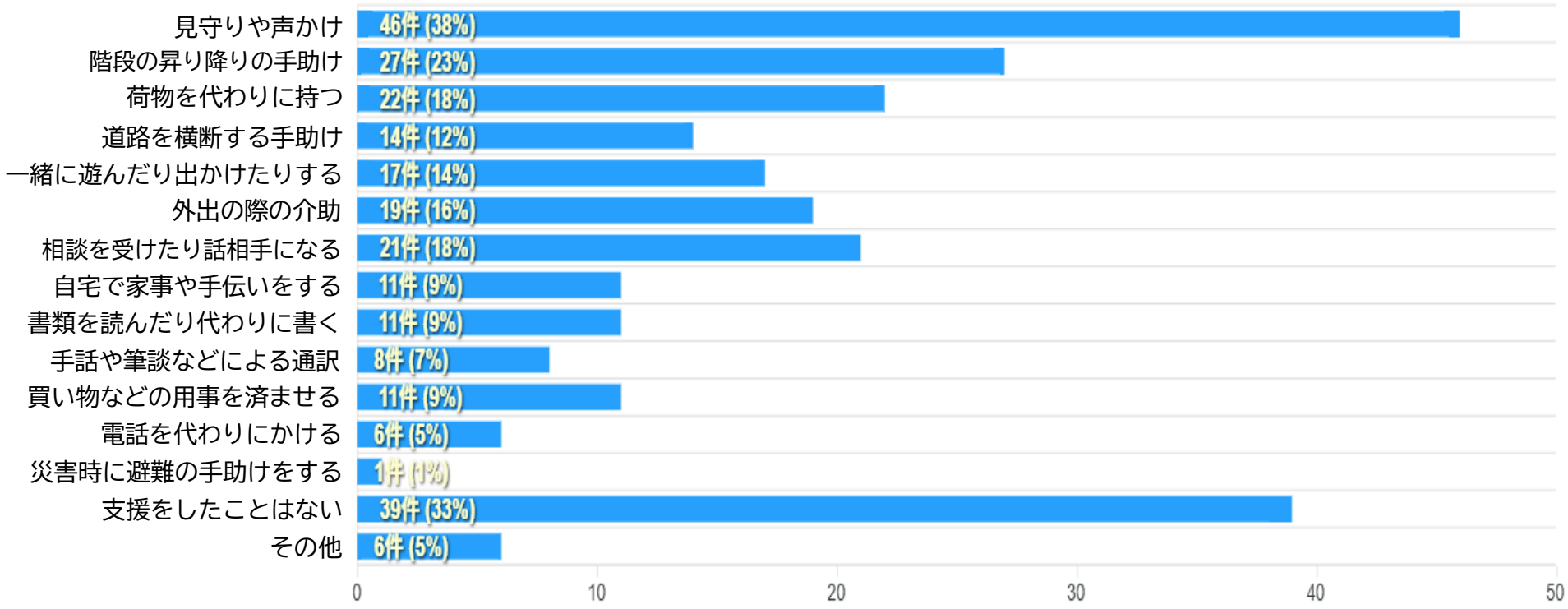
項目	人数	割合
毎日	２３	１９％
週に２、３回	１１	９％
月に数回	１４	１２％
年に数回	１６	１３％
ほとんどない	３７	３１％
まったくない	１９	１６％



Ｑ１０．これまで、障がいのある人に対して、何らかの支援をしたことはありますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
見守りや声かけ	４６	３８％
階段の昇り降りの手助け	２７	２３％
荷物を代わりに持つ	２２	１８％
道路を横断する手助け	１４	１２％
一緒に遊んだり出かけたりする	１７	１４％
外出の際の介助	１９	１６％
相談を受けたり話相手になる	２１	１８％
自宅で家事や手伝いをする	１１	９％

項目	人数	割合
書類を読んだり代わりに書く	１１	９％
手話や筆談などによる通訳	８	７％
買い物などの用事を済ませる	１１	９％
電話を代わりにかける	６	５％
災害時に避難の手助けをする	１	１％
支援をしたことはない	３９	３３％
その他	６	５％

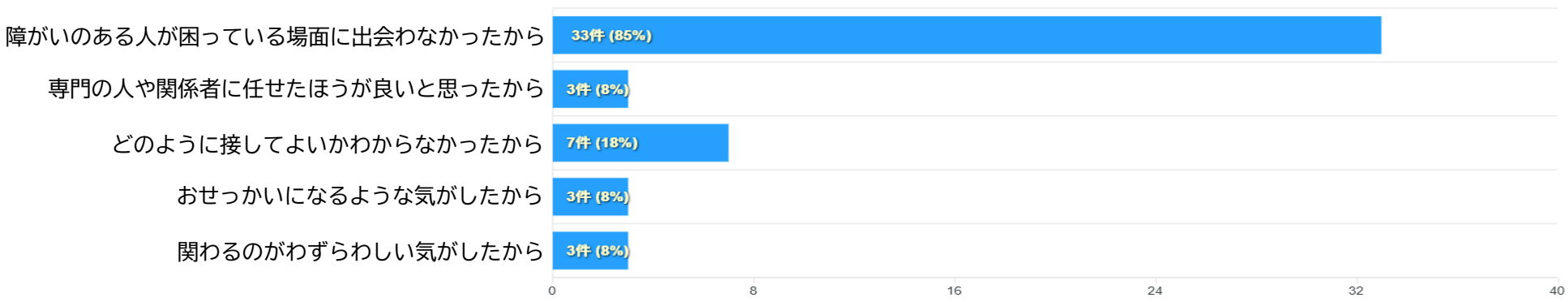


その他の回答

農作業の補助
仕事
前の職場で数名の障がい者とともに仕事をしていた
特別支援学校での外部講師
Be My Eyes のアプリで目の不自由な方のお手伝いをしたりしている
過去職場に障碍者の方が雇用されていた。

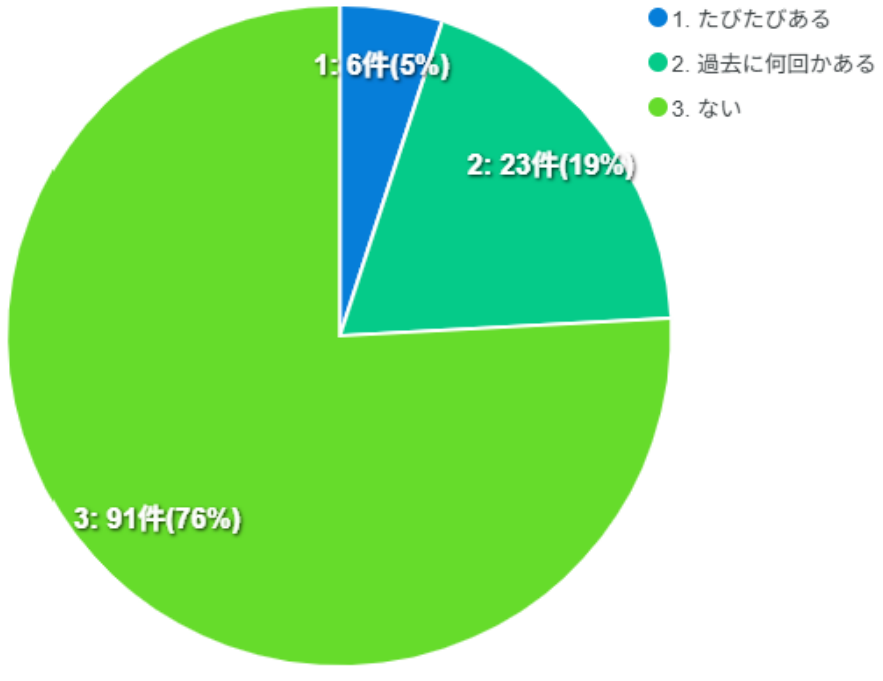
Ｑ１１．支援をしたことがない理由は何ですか。（複数回答可）
【Ｑ１０で 支援をしたことはない と回答した方のみ回答】

項目	人数	割合
障がいのある人が困っている場面に出会わなかったから	３３	８５％
専門の人や関係者に任せたほうが良いと思ったから	3	８％
どのように接してよいかわからなかったから	7	１８％
おせっかいになるような気がしたから	3	８％
関わるのがわずらわしい気がしたから	3	８％



Ｑ１２．あなたは、障がい者を支援するボランティア活動に参加したことはありますか。

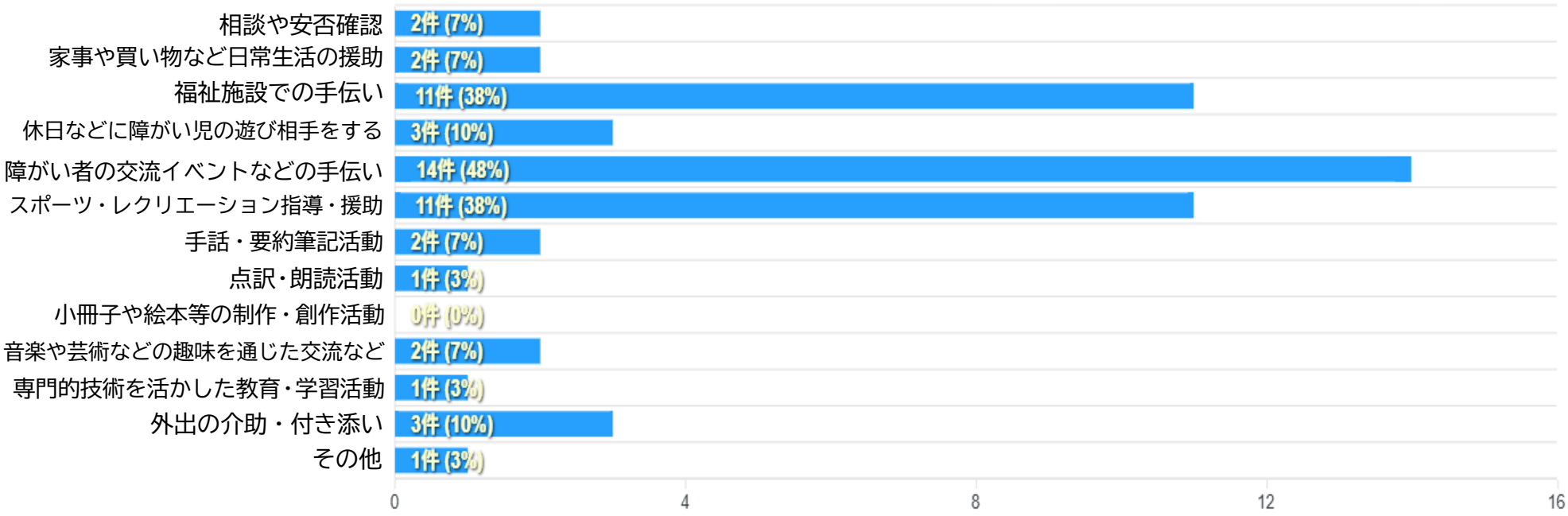
項目	人数	割合
たびたびある	6	５％
過去に何回かある	２３	１９％
ない	９１	７６％



Q１３．どのようなボランティア活動に参加しましたか。（複数回答可）
【Q１２で たびたびある または 過去に何回かある と回答した方のみ回答】

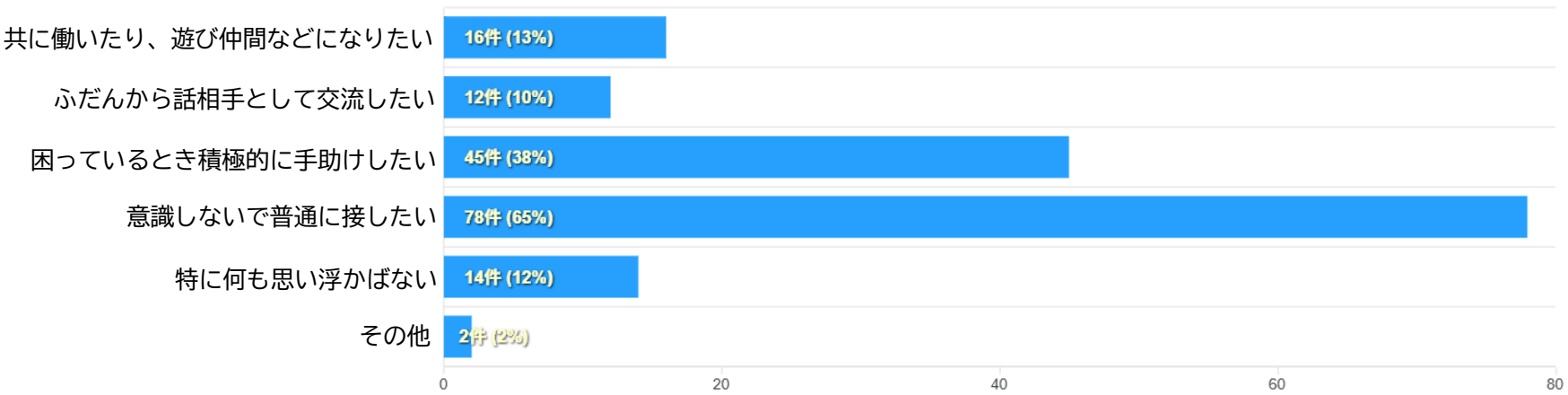
項目	人数	割合
相談や安否確認	４６	３８％
家事や買い物など日常生活の援助	２７	２３％
福祉施設での手伝い	２２	１８％
休日などに障がい児の遊び相手をする	１４	１２％
障がい者の交流イベントなどの手伝い	１７	１４％
スポーツ・レクリエーション指導・援助	１９	１６％
手話・要約筆記活動	２１	１８％

項目	人数	割合
点訳・朗読活動	１１	９％
小冊子や絵本等の制作・創作活動	８	７％
音楽や芸術などの趣味を通じた交流など	１１	９％
専門的技術を活かした教育・学習活動	６	５％
外出の介助・付き添い	１	１％
その他	６	５％



Q１４．あなたは障がいのある人とどのような関係を築きたいですか。（複数回答可）

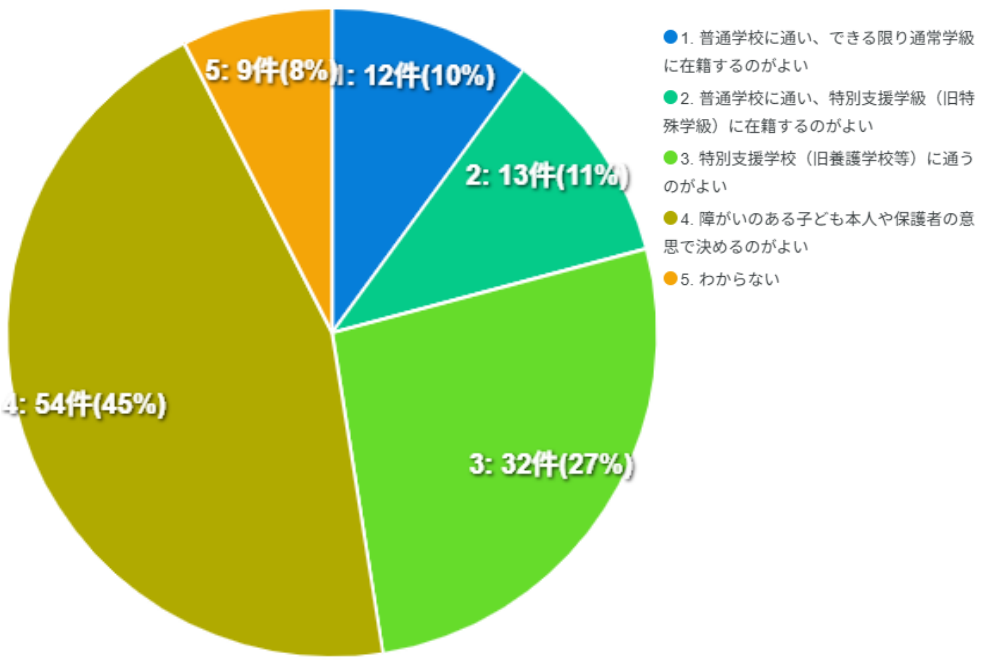
項目	人数	割合
共に働いたり、遊び仲間などになりたい	１６	１３％
ふだんから話相手として交流したい	１２	１０％
困っているとき積極的に手助けしたい	４５	３８％
意識しないで普通に接したい	７８	６５％
特に何も思い浮かばない	１４	１２％
その他	２	２％



障がい者の教育・就労について、おたずねします。

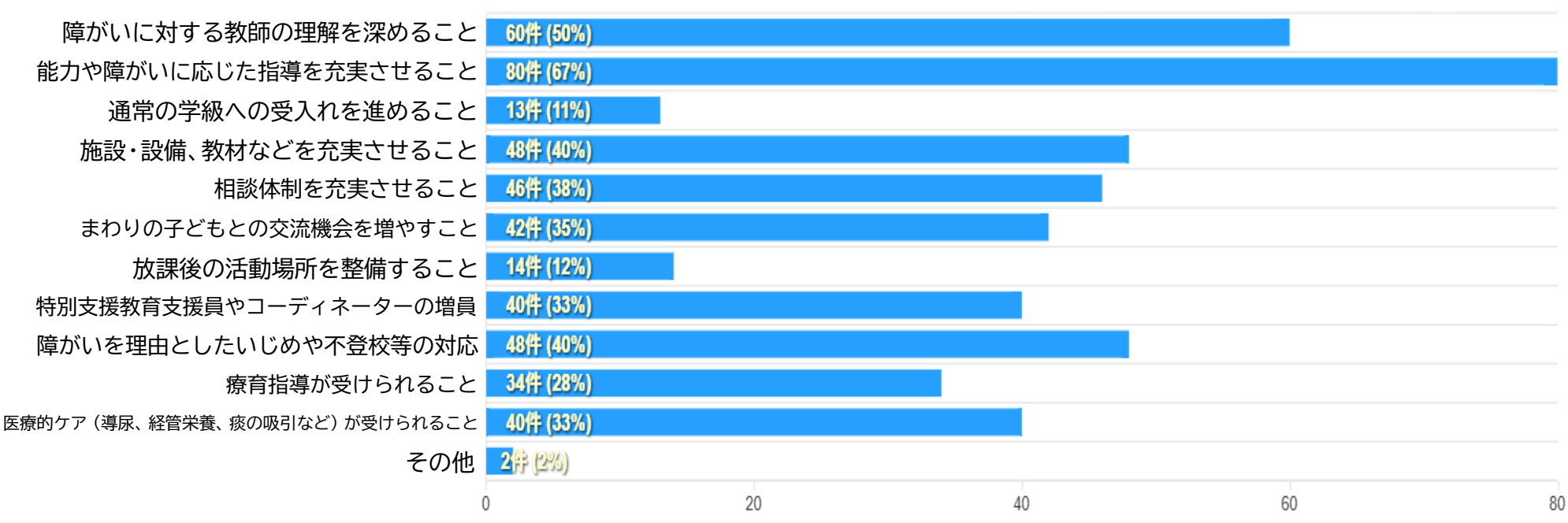
Ｑ１５．あなたは、障がいのある子どもの通学についてどのような考えをお持ちですか。

項目	人数	割合
普通学校に通い、できる限り通常学級に在籍するのがよい	１２	１０％
普通学校に通い、特別支援学級（旧特殊学級）に在籍するのがよい	１３	１１％
特別支援学校（旧養護学校等）に通うのがよい	３２	２７％
障がいのある子ども本人や保護者の意思で決めるのがよい	５４	４５％
わからない	９	８％



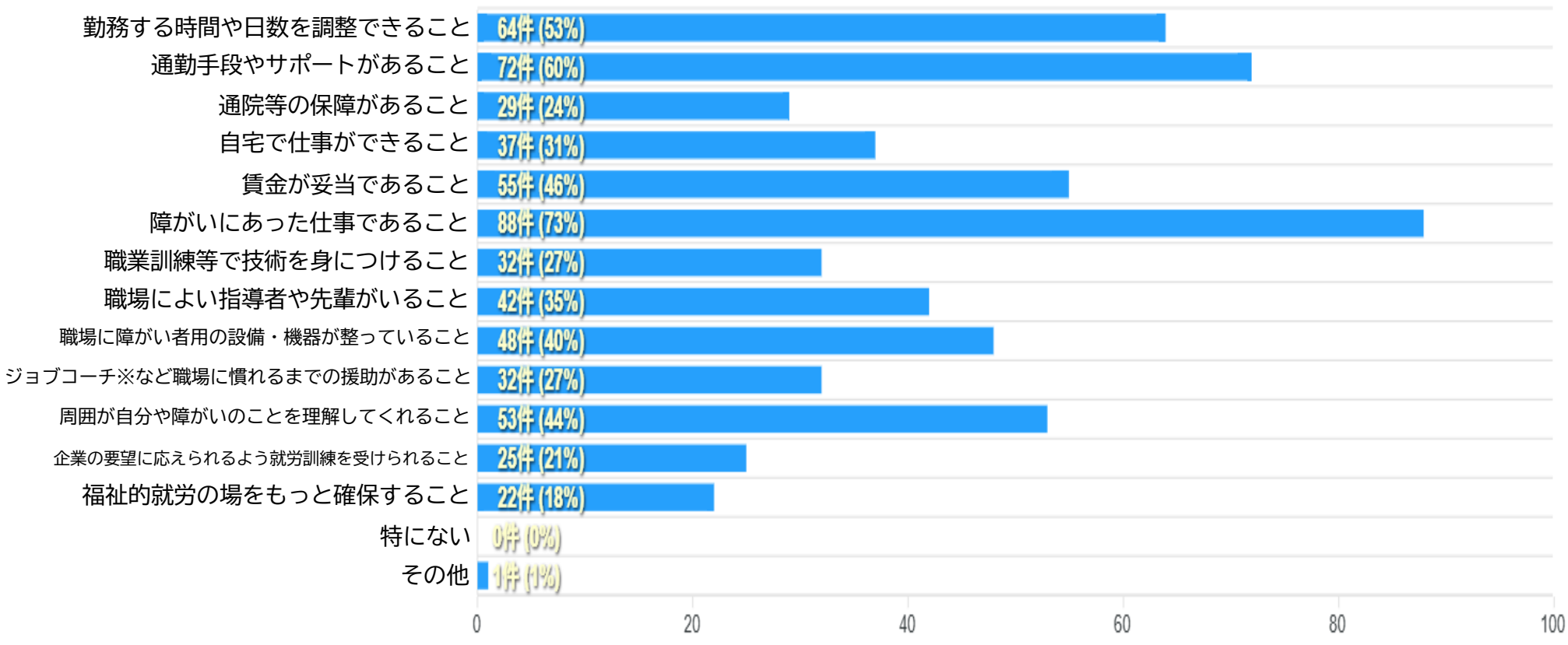
Ｑ１６．障がいのある子どもが学ぶための環境について、どのようなことが望ましいと思いますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
障がいに対する教師の理解を深めること	６０	５０％
能力や障がいに応じた指導を充実させること	８０	６７％
通常の学級への受入れを進めること	１３	１１％
施設・設備、教材などを充実させること	４８	４０％
相談体制を充実させること	４６	３８％
まわりの子どもとの交流機会を増やすこと	４２	３５％
放課後の活動場所を整備すること	１４	１２％
特別支援教育支援員やコーディネーターの増員	４０	３３％
障がいを理由としたいじめや不登校等の対応	４８	４０％
療育指導が受けられること	３４	２８％
医療的ケア（導尿、経管栄養、痰の吸引など）が受けられること	４０	３３％
その他	２	２％



Ｑ１７．障がいのある人が働くためには、どのような環境や条件が整っていることが大切だと思いますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
勤務する時間や日数を調整できること	６４	５３％
通勤手段やサポートがあること	７２	６０％
通院等の保障があること	２９	２４％
自宅で仕事ができること	３７	３１％
賃金が妥当であること	５５	４６％
障がいにあった仕事であること	８８	７３％
職業訓練等で技術を身につけること	３２	２７％
職場によい指導者や先輩がいること	４２	３５％
職場に障がい者用の設備・機器が整っていること	４８	４０％
ジョブコーチなど職場に慣れるまでの援助があること	３２	２７％
周囲が自分や障がいのことを理解してくれること	５３	４４％
企業の要望に応えられるよう就労訓練を受けられること	２５	２１％
福祉的就労の場をもっと確保すること	２２	１８％
特にない	０	０％
その他	１	１％



※ジョブコーチ（職場適応援助者）
障がいのある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ち等をお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も行います。

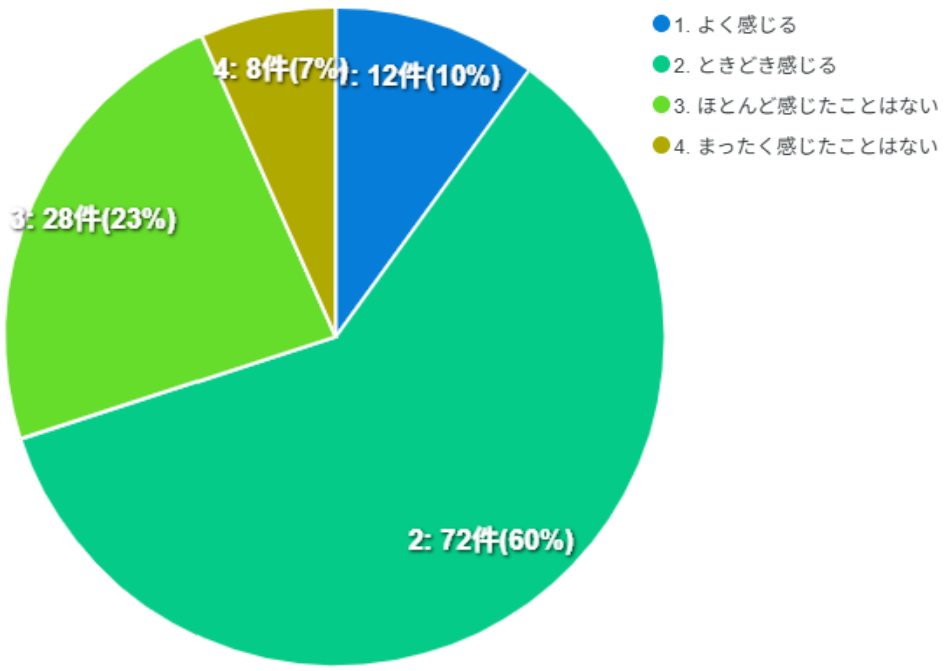
その他の回答

今の職場に知的障害の方がいます。60 歳男性です。仕事中に女性のパートさんにつきまといをしています。トイレにもついていこうとするし配属先とは違う場所にうろうろしています。走っておいかけたくることもあるし注意をすると突然大きなパレットを持ち上げて投げ出したり全く聞く耳がありません。その方にはジョブコーチ等はいません。フリーです。同じ職場に働く身としては危険が伴うのでとても不安です。障害者を雇用している企業には補助金がでています。なのに放置。補助金を不正受給しているとしか思えません。定期的に職場への訪問、従業員への聞き込みなどがあるといいと思います。

障がい者に対する周囲の理解について、おたずねします。

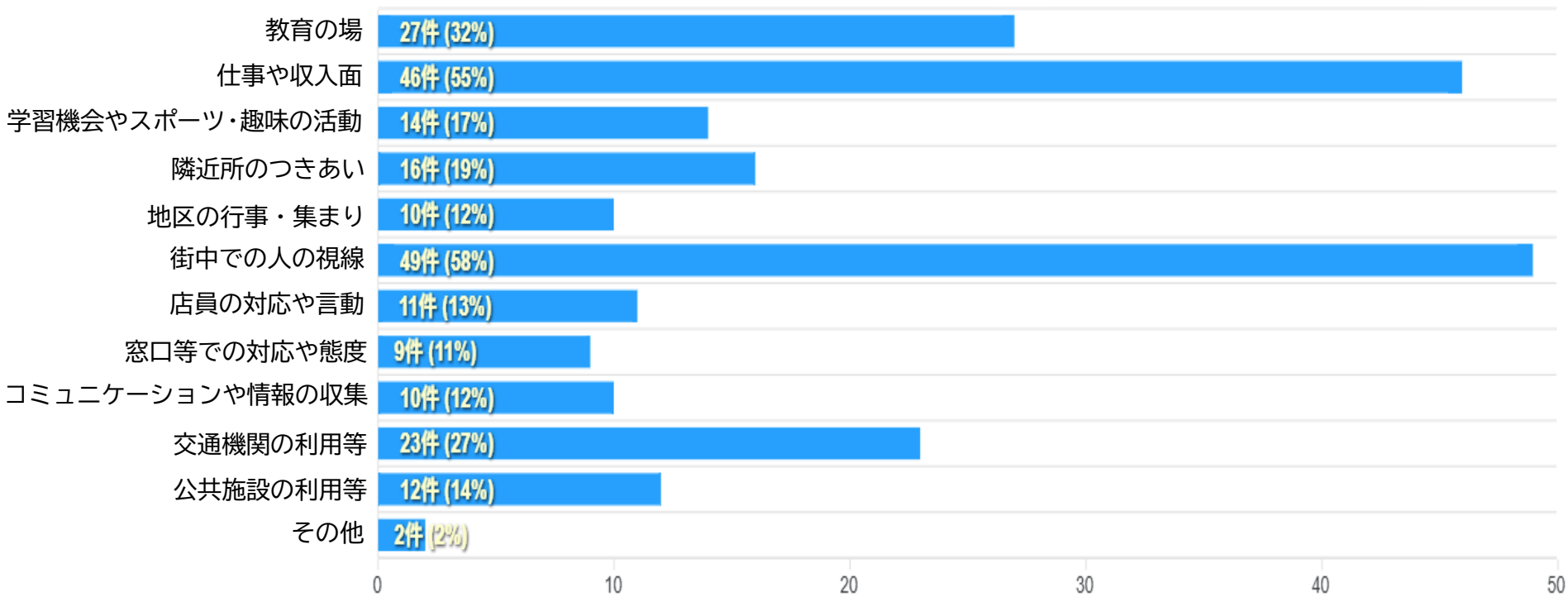
Ｑ１８．日常生活で、障がいのある人に対する差別や偏見があると感じますか。

項目	人数	割合
よく感じる	１２	１０％
ときどき感じる	７２	６０％
ほとんど感じたことはない	２８	２３％
まったく感じたことはない	８	７％



Ｑ１９．具体的にどのような場面で、差別や偏見があると感じましたか。（複数回答可）

項目	人数	割合
教育の場	２７	３２％
仕事や収入面	４６	５５％
学習機会やスポーツ・趣味の活動	１４	１７％
隣近所のつきあい	１６	１９％
地区の行事・集まり	１０	１２％
街中での人の視線	４９	５８％
店員の対応や言動	１１	１３％
窓口等での対応や態度	９	１１％
コミュニケーションや情報の収集	１０	１２％
交通機関の利用等	２３	２７％
公共施設の利用等	１２	１４％
その他	２	２％

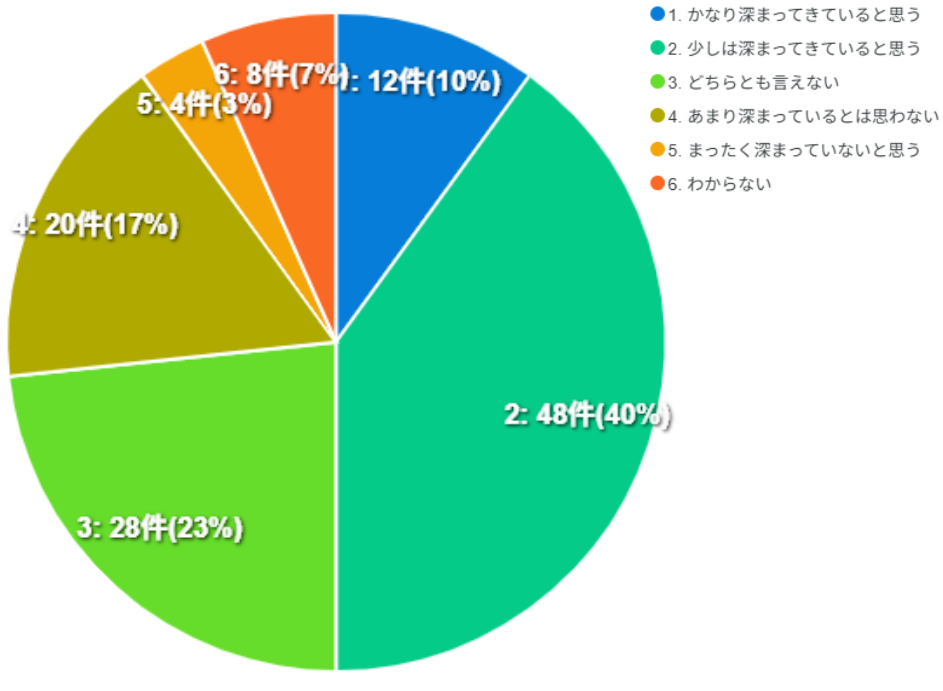


その他の回答

職場で障害者がほとんど仕事しないし指示に従わないので敬遠される。まして女性につきまといするのは理解しがたい行為で付添人がいないと同じ職場で共存は難しいと思う。
団体での行動で差が発生するとき

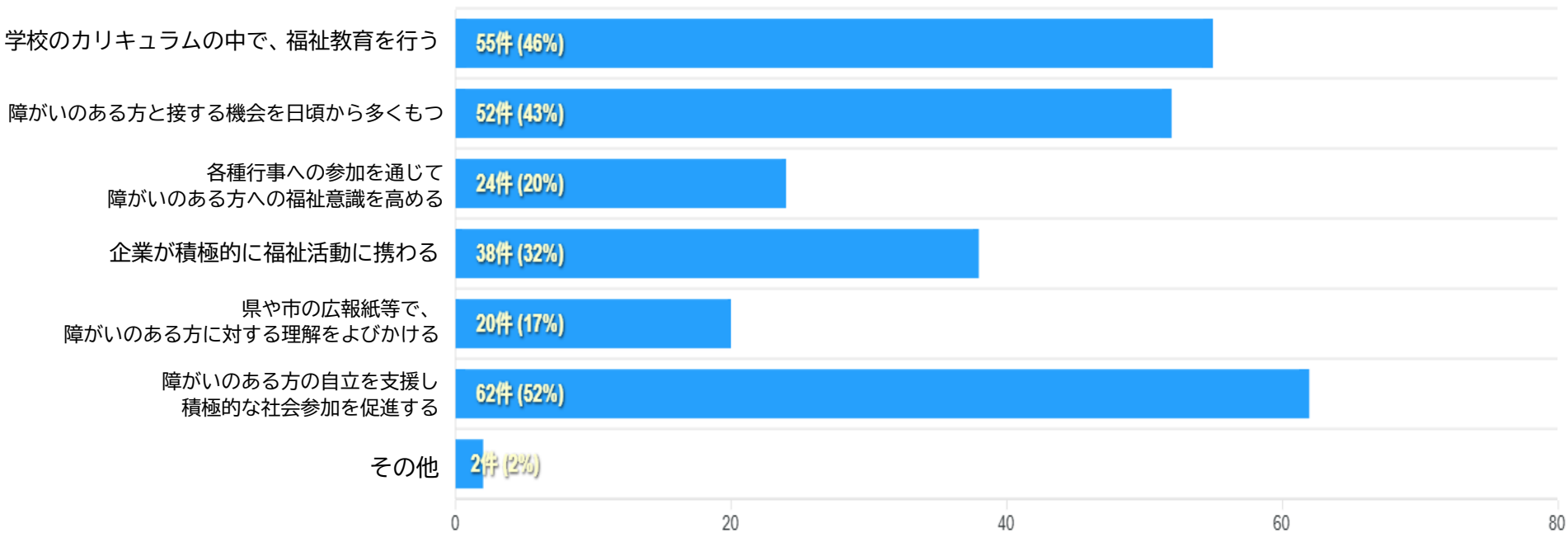
Ｑ２０．あなたはここ数年で、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきていると思いますか。

項目	人数	割合
かなり深まってきていると思う	１２	１０％
少しは深まってきていると思う	４８	４０％
どちらとも言えない	２８	２３％
あまり深まっているとは思わない	２０	１７％
まったく深まっていないと思う	４	３％
わからない	８	７％



Ｑ２１．障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと考えますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
学校のカリキュラムの中で、福祉教育を行う	５５	４６％
障がいのある方と接する機会を日頃から多くもつ	５２	４３％
各種行事への参加を通じて障がいのある方への福祉意識を高める	２４	２０％
企業が積極的に福祉活動に携わる	３８	３２％
県や市の広報紙等で、障がいのある方に対する理解をよびかける	２０	１７％
障がいのある方の自立を支援し積極的な社会参加を促進する	６２	５２％
その他	２	２％

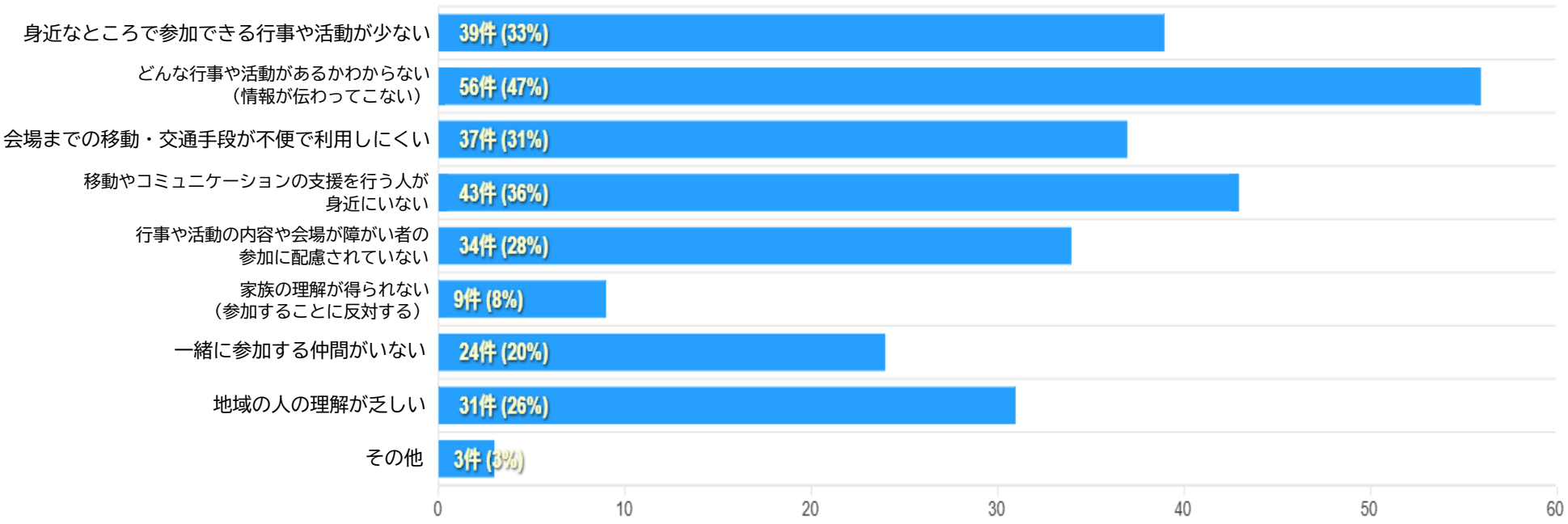


その他の回答

携わる人がさらに理解を深める機会を増やす。特に教職員
知的、精神障害者には必ず付添人がいるべきだと思う。

Ｑ２２．あなたは、障がいのある人にとって、どのようなことが地域や社会への参加を阻んでいると思われますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
身近なところで参加できる行事や活動が少ない	３９	３３％
どんな行事や活動があるかわからない（情報が伝わってこない）	５６	４７％
会場までの移動・交通手段が不便で利用しにくい	３７	３１％
移動やコミュニケーションの支援を行う人が身近にいない	４３	３６％
行事や活動の内容や会場が障がい者の参加に配慮されていない	３４	２８％
家族の理解が得られない（参加することに反対する）	９	８％
一緒に参加する仲間がいない	２４	２０％
地域の人の理解が乏しい	３１	２６％
その他	３	３％

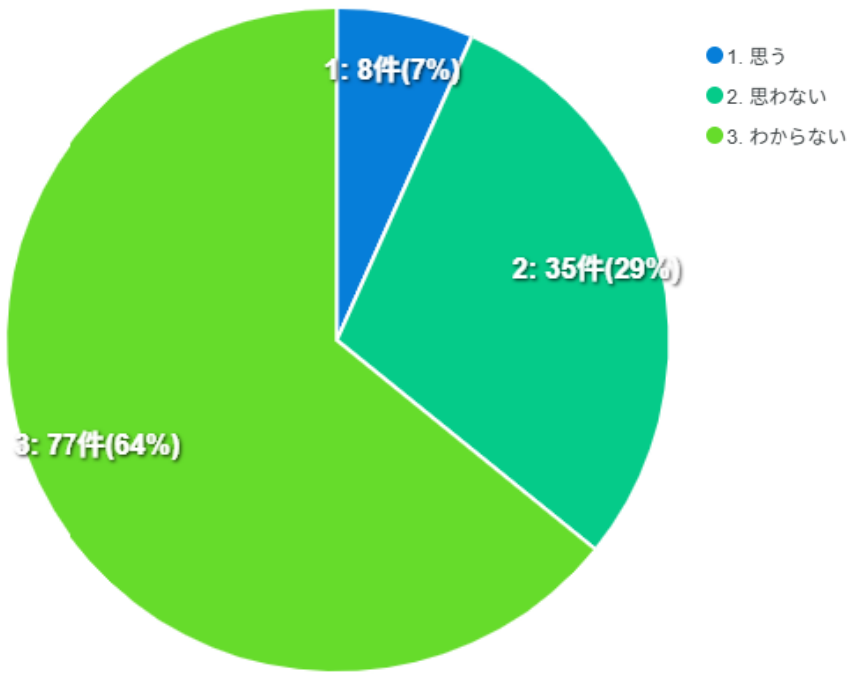


その他の回答

社会参加を阻む理由は思いつかない
知的、精神障害者がくるようになったら健常者がこなくなるのではないでしょうか？
障がいのある人によって何が参加を阻んでいるかは異なると思うので、回答が難しいです。

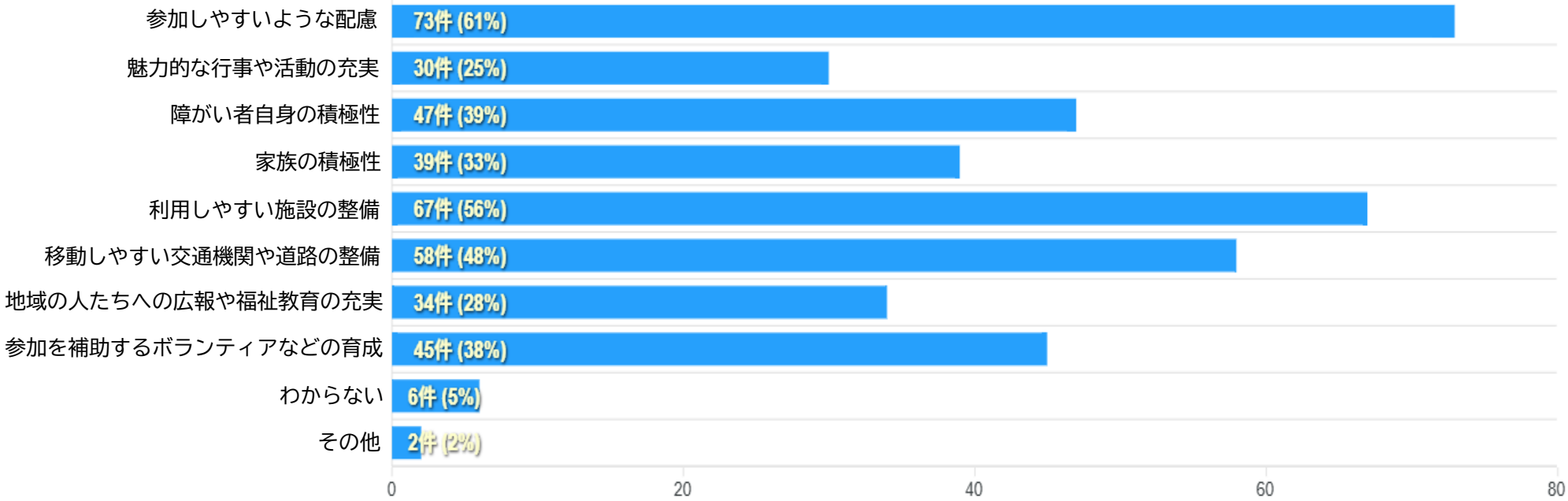
Ｑ２３．障がい者が気軽に外出したり、地域の行事に参加できるなど、小美玉市は「障がい者にとって社会参加しやすいまち」だと思いますか。

項目	人数	割合
思う	８	７％
思わない	３５	２９％
わからない	７７	６４％



Ｑ２４．障がいのある人が地域や社会に積極的に参加していくためには、どのようなことが大切だと考えますか。
（複数回答可）

項目	人数	割合
参加しやすいような配慮	３９	３３％
魅力的な行事や活動の充実	５６	４７％
障がい者自身の積極性	３７	３１％
家族の積極性	４３	３６％
利用しやすい施設の整備	３４	２８％
移動しやすい交通機関や道路の整備	９	８％
地域の人たちへの広報や福祉教育の充実	２４	２０％
参加を補助するボランティアなどの育成	３１	２６％
わからない	３	３％
その他		



その他の回答

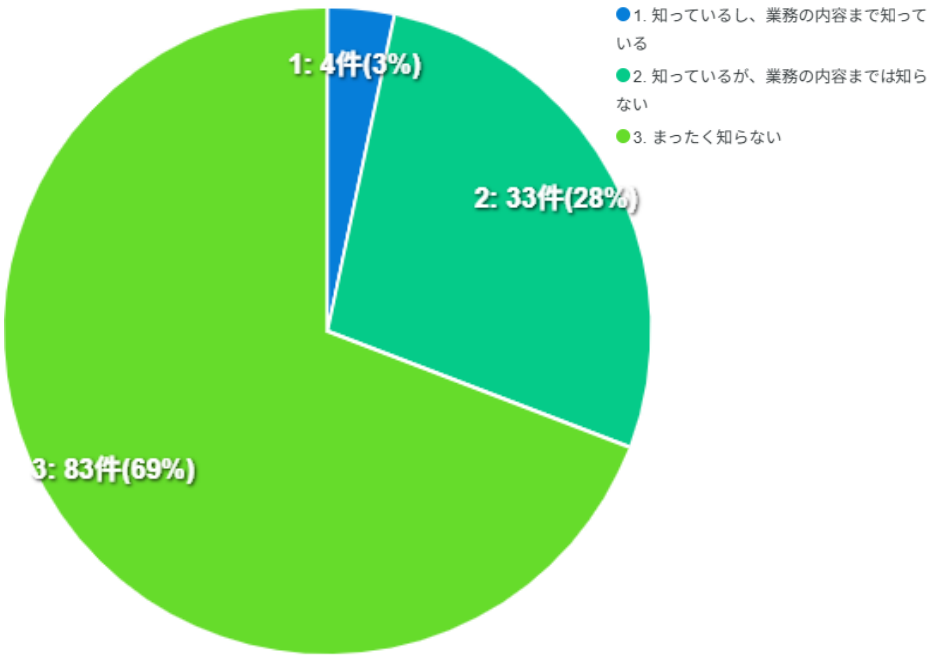
障害の有無にかかわらず、行政サービスを受けやすく自立支援が充実していること。
今の職場にいる知的障害（日雇い派遣）の方が放題状態なので問題がある行為がある人には付添人が必要になってほしい。

障がい者施策や支援について、おたずねします。

Ｑ２５．あなたは小美玉市に基幹相談支援センター※があることを知っていますか。

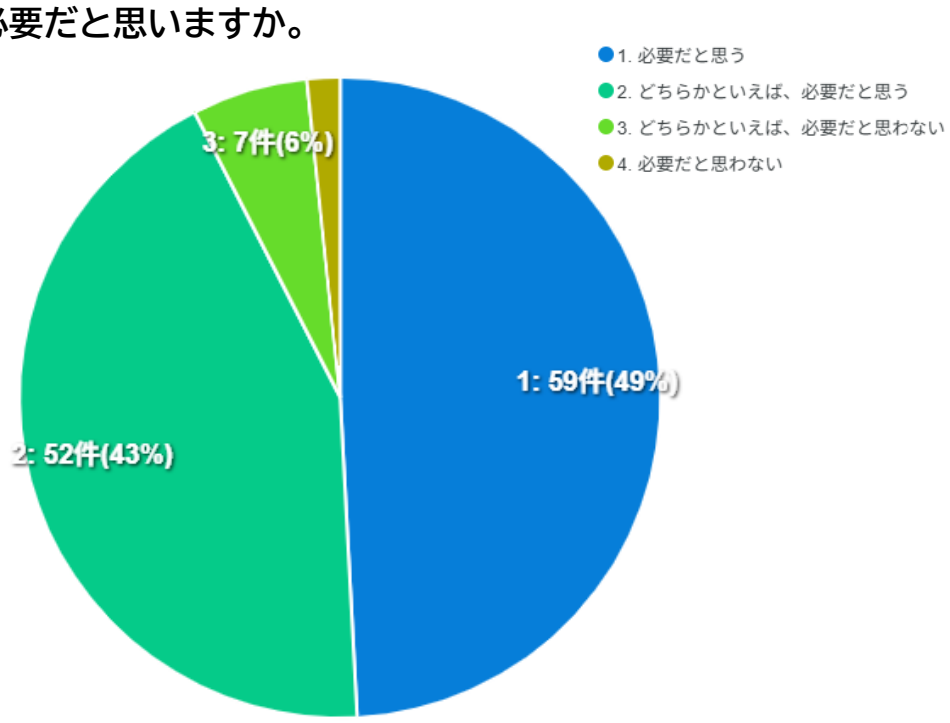
※基幹相談支援センターとは
地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、総合的・専門的な相談の実施や地域の相談支援体制強化の取組、地域移行・地域定着の促進の取組、権利擁護・虐待の防止など、総合的に業務を行うことを目的とする施設です。

項目	人数	割合
知っているし、業務の内容まで知っている	４	３％
知っているが、業務の内容までは知らない	３３	２８％
まったく知らない	８３	６９％



Ｑ２６．あなたは小美玉市に基幹相談支援センターがあることは必要だと思いますか。

項目	人数	割合
必要だと思う	５９	４９％
どちらかといえば、必要だと思う	５２	４３％
どちらかといえば、必要だと思わない	7	６％
必要だと思わない	2	２％



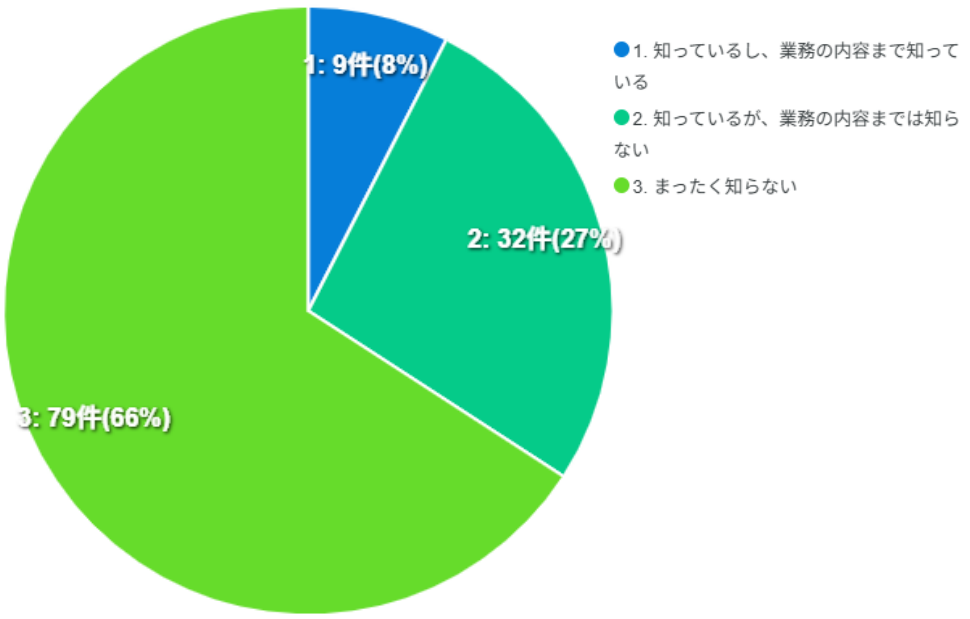
Ｑ２７．基幹相談支援センターに対して、期待することは何ですか。ご自由にご記入ください。

問題点がわかりませんので期待時効がわかりません
広く周知しないと誰もしないと思う。例えばどんな事をしているのかしてくれるのか具体的に周知したほうがいい
私は今回初めて基幹相談支援センターの存在を知りました。広く周知し、皆さんに活動を知って頂いた方が良いと思います。
公共交通機関が乏しい為、タクシー等を有効に使える様な施策を実行する。
概要が分からないため答えようがありません。
相談窓口が色々あり過ぎでわかりずらい。
当事者でないため実際のところ分からない。
障害者やその家族が、地域の人たちと共生するための橋渡しになっていただけるよう、期待します
日常接している家族の考え、行動を理解しでいただき、具体的な対応方法を教えていただける支援者を必要です
子供たちへの細やかな対応
できる限りの権限を持った機関になる
小美玉市に暮らす方々が、年齢や障がいの有無にかかわらず安心して生活できるよう、地域全体を支える“要”としての役割を期待します。 特に、相談支援の一元化と分かりやすい窓口づくり どこに相談すればよいか迷わず、誰もが気軽にアクセスできる体制を整えていただきたいです。 また、医療・福祉・教育・保育・地域団体との情報共有や連携を深め、支援が途切れない仕組みを構築していただきたいです。 家庭内の困難、虐待リスク、医療的ケア児支援など、個別性の高いケースに対して迅速で専門的な支援を期待しています。 まずは、本人と家族の気持ちに丁寧に寄り添い、必要なサービスにつなげるだけでなく、安心感のある伴走支援をお願いしたいです。 地域の理解促進や研修会の開催など、共生社会の実現に向けた情報発信・啓発にも力を入れていただければと思います。
期待を述べる前に、まず、もう少し勉強したいと思います。
申し訳ありませんが、分かりません。
現段階では、よく分からないです。
障害者本人の目線に沿った相談が出来る事で、個人個人の方が何を必要としているのかを理解した上で対応して欲しいです。
もっと、いろいろなことをアピールしたほうが良い。
活動内容を理解していないのでわからない。
まだ理解が浅いので、うまく回答できない。
今後、更なる支援を希望する。
活動内容が見える化できるとうれしいです。
今、障害者が大変に、増えているので、そうならない働きかけ
特になし

Ｑ２８．あなたは小美玉市に児童発達支援センター※があることを知っていますか。

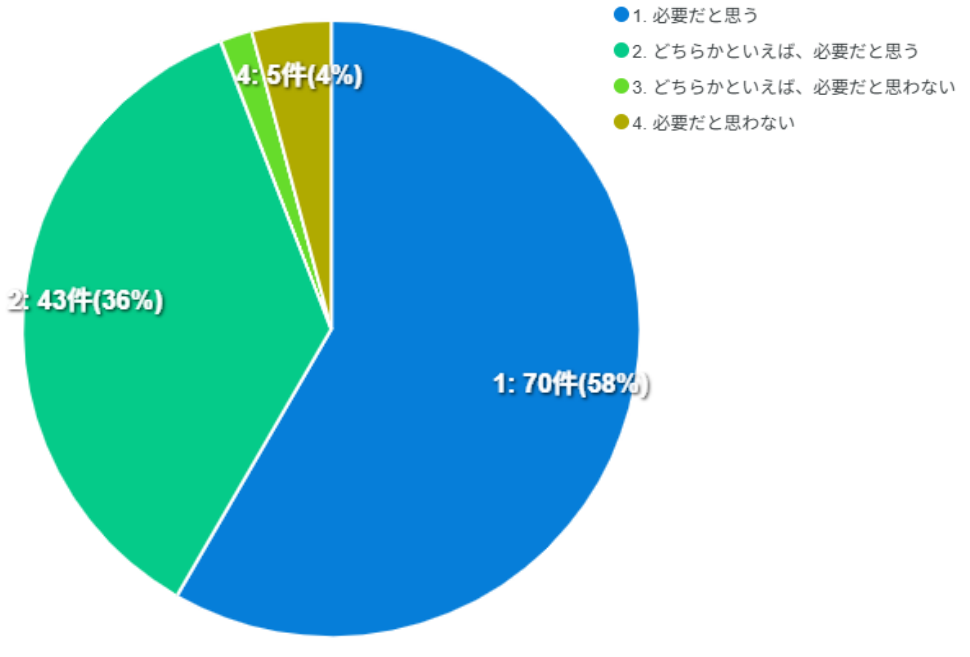
※児童発達支援センターとは
発達に支援が必要な子ども（主に就学前の児童）に対して、日常生活における基本的な動作の習得や、集団生活への適応などを支援する施設です。

項目	人数	割合
知っているし、業務の内容まで知っている	９	８％
知っているが、業務の内容までは知らない	３２	２７％
まったく知らない	７９	６６％



Ｑ２９．あなたは小美玉市に児童発達支援センターがあることは必要だと思いますか。

項目	人数	割合
必要だと思う	７０	５８％
どちらかといえば、必要だと思う	４３	３６％
どちらかといえば、必要だと思わない	２	２％
必要だと思わない	５	４％



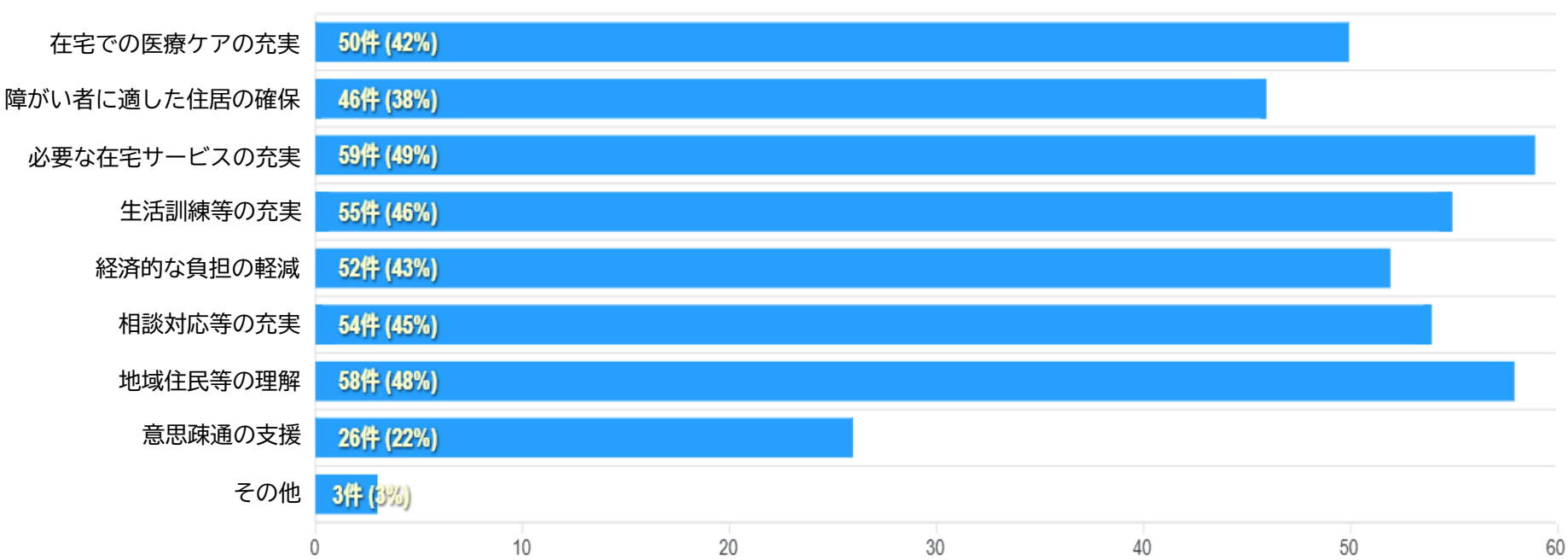
Ｑ３０．児童発達支援センターに対して、期待することは何ですか。ご自由にご記入ください。

児童発達支援センターに対して、期待することは何ですか。ご自由にご記入ください。
特にありません
子どももそうだが保護者にも支援をする体制を作ってほしい
発達支援が必要な子供達が集団生活に馴染めるよう努力して頂きたいです。
健常者と関わりながら生活出来る様にすること。
発達障害があるお子さんは勿論、その家族のケアも出来ると。 障害をお持ちのお子さんの親御さんも発達障害学習障害傾向にある様に感じる為。
必要な子供のケアも大事だが、必要不要と区別せず集団生活をさせることで、お互いの考え方や対応を学ばせるべきと考える。
概要が分からないため答えようがありません。
市単独で維持するのはコストがかかりすぎるので、広域エリアで対応するべき
当事者でないため実際のところ分からない。
就学前の児童が、家庭内でのみ日常の生活習慣を習得するのは困難であろうと思われるため、行政が支援することによって社会に適応できることは素晴らしい。ぜひとも細やかな支援をお願いしたいです。
人としての礼儀作法、その人として必要な行事など丁寧に教えていくことも必要でしょう。行っているとは思います。けれど再度確認の意味です。
子供たちへの支援
小美玉市に限らず、他の市町村センターと交流の場を設け、支援される児童達のやる気を維持向上させていく。
そこで働いています

様々な発達障害がある中で、どこまで一人ひとりの特性に寄り添えるかが、とても重要だと感じています。それぞれの子どもが「その子らしさ」を大切にされた上で、将来の選択肢が広がるような丁寧な支援をお願いしたいです。 たとえば、コミュニケーションが苦手な子には、本人が安心して意思を伝えられる方法（視覚支援・タイムタイマー・絵カード・AAC など）の習得をサポートすること 感覚過敏のある子には、困りごとの原因を一緒に整理し、どうすれば生活や学習がスムーズになるかを具体的に提案すること 集団が苦手な子には、無理をさせず、少人数や個別の場面から成功体験を積める環境を作っていくこと 行動面で困難が出る子には、叱る・矯正するのではなく、背景にある理由を丁寧に分析し、環境調整や適切な関わり方を家族と共有すること。こうした積み重ねが、結果的に“その子が社会の中で自分らしく生きていく力”につながると思います。 支援の場だけで「できる」ようになることは、もちろん大切です。ですが、実際に社会に出た時にそれが発揮できなければ、結局は福祉に頼らざるを得ない生活になってしまう可能性があります。それが本人のやりがいや生きがいにつながっていくのかと考えると、とても難しい問題だと感じます。 だからこそ、 学校との連携による“学びの土台づくり” 家庭と共有しながら、日常生活で活かせる“生活スキルの細かな支援” 将来の就労を見据えた“得意の見つけ方・伸ばし方”の提示 地域で生きやすくなるための“社会理解の促進” こういった“将来につながる支援”を、自動発達支援センターが中心となって進めていただけることを期待しています。 一人の人として尊重され、無理を強いられるのではなく、「その子の可能性が自然に広がっていく」ような支援が、小美玉市で根付いていくことを心から願っています。
Q27 に同じです。
特にないです
良く分かりません。
今は、コミュニケーションが取れない等の障害もあるので、幅広い分野の相談員が必要と思います。
Q27 と同じ。
頑張ってください。
初めて知ったので、うまく回答できない。
活動内容が見える化できるとうれしいです。
発達に障害のある子供の子育ては大変だと思うので母への育児を手助けするサービスなど
児童発達支援センターを理解していないので、何を期待し何が足りないのかも分からないので、何も記入できない。

Ｑ３１．障がい者が地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
在宅での医療ケアの充実	３９	３３％
障がい者に適した住居の確保	５６	４７％
必要な在宅サービスの充実	３７	３１％
生活訓練等の充実	４３	３６％
経済的な負担の軽減	３４	２８％
相談対応等の充実	９	８％
地域住民等の理解	２４	２０％
意思疎通の支援	３１	２６％
その他	３	３％

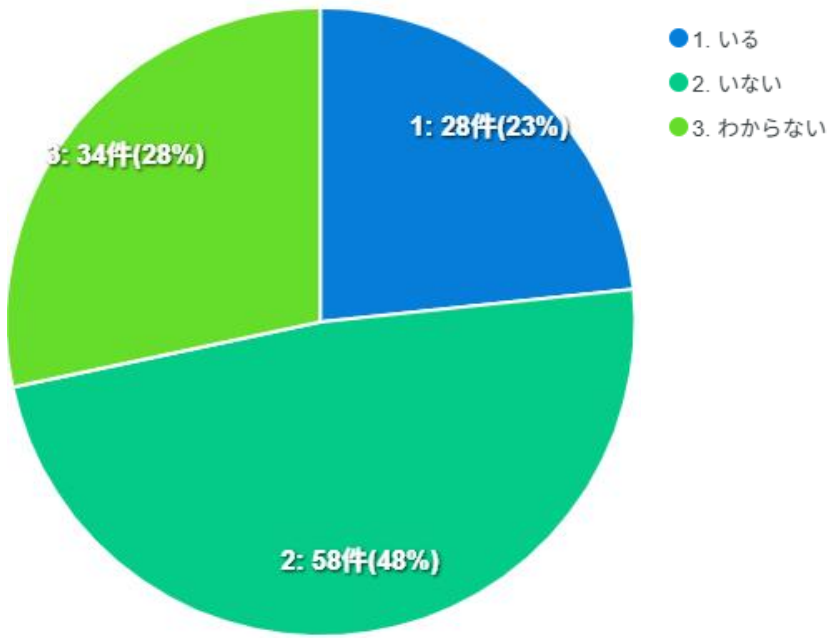


その他の回答

基本的に人によるし、障害を持っていなくても支援が必要な人はいるので、固定的な支援より、柔軟に対応できる体制を整えるべきと考える。
働くのであれば定期的に職場での環境や仕事の様子を確認して欲しい。
利用しやすい公共交通

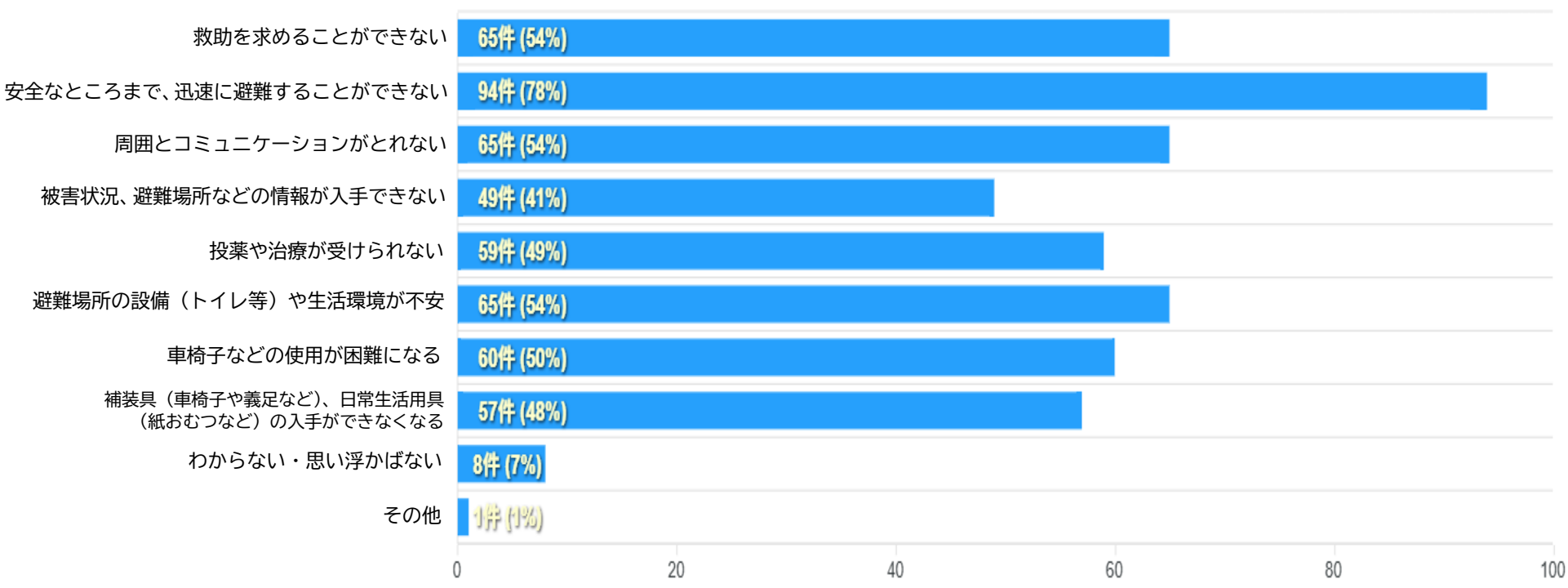
Q３２．あなたの身近に、災害時に支援が必要な障がいのある人はいますか。

項目	人数	割合
いる	２８	２３％
いない	５８	４８％
わからない	３４	２８％



Q３３．障がい者にとって、災害が起きたときの心配は何だと思いますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
救助を求めることができない	６５	５４％
安全なところまで、迅速に避難することができない	９４	７８％
周囲とコミュニケーションがとれない	６５	５４％
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	４９	４１％
投薬や治療が受けられない	５９	４９％
避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	６５	５４％
車椅子などの使用が困難になる	６０	５０％
補装具（車椅子や義足など）、日常生活用具（紙おむつなど）の入手ができなくなる	５７	４８％
わからない・思い浮かばない	８	７％
その他	１	１％

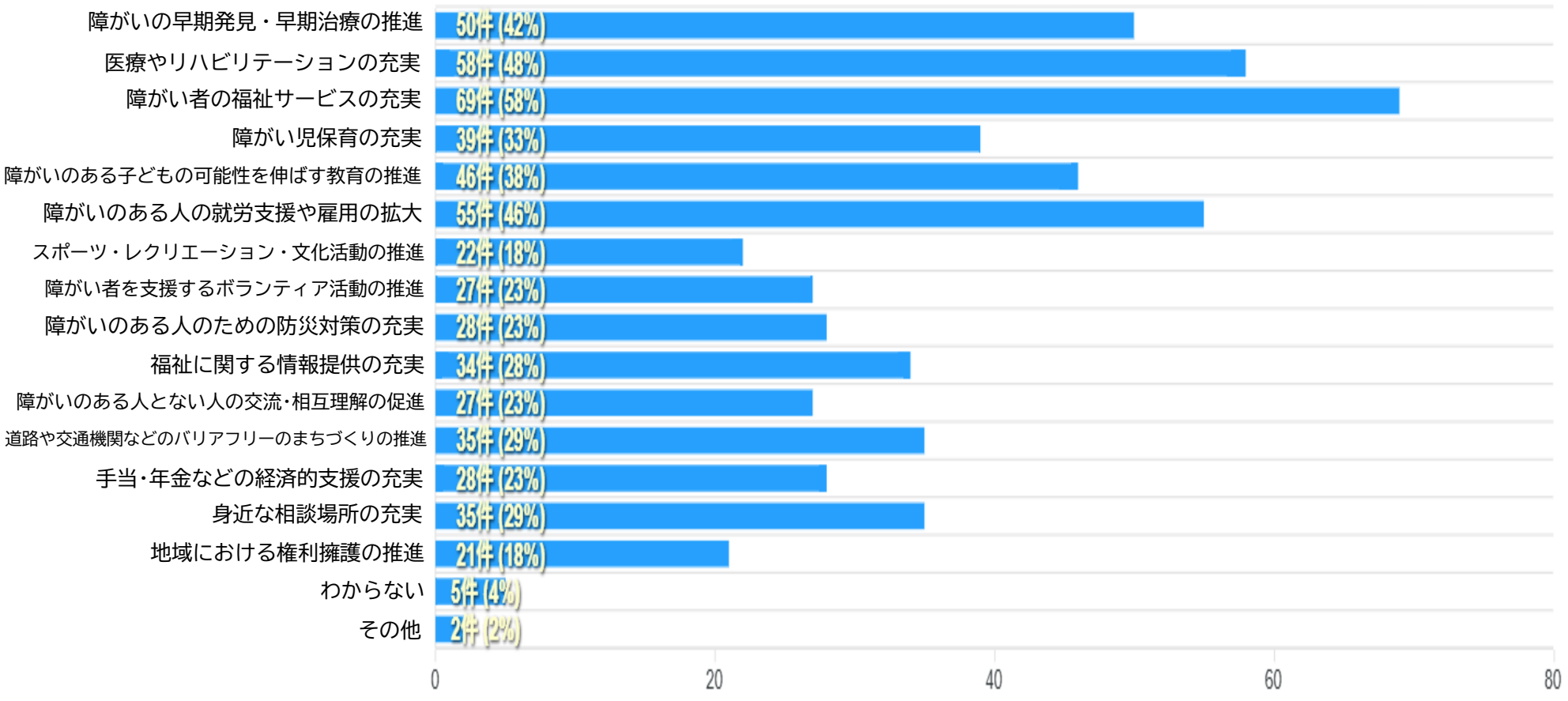


その他の回答

この点は障害者も健常者も、同じだと思います。

Ｑ３４．障がいのある人にとって、特に必要な福祉政策は何だと思いますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
障がいの早期発見・早期治療の推進	５０	４２％
医療やリハビリテーションの充実	５８	４８％
障がい者の福祉サービスの充実	６９	５８％
障がい児保育の充実	３９	３３％
障がいのある子どもの可能性を伸ばす教育の推進	４６	３８％
障がいのある人の就労支援や雇用の拡大	５５	４６％
スポーツ・レクリエーション・文化活動の推進	２２	１８％
障がい者を支援するボランティア活動の推進	２７	２３％
障がいのある人のための防災対策の充実	２８	２３％
福祉に関する情報提供の充実	３４	２８％
障がいのある人とない人の交流・相互理解の促進	２７	２３％
道路や交通機関などのバリアフリーのまちづくりの推進	３５	２９％
手当・年金などの経済的支援の充実	２８	２３％
身近な相談場所の充実	３５	２９％
地域における権利擁護の推進	２１	１８％
わからない	5	4％
その他	2	2％



その他の回答

障害児を持つ保護者の支援。また、障害児の手帳の対象から外れてしまっている境界知能、グレーゾーンの子どもたちとその保護者に対するサービス、支援の充実は必須だと思う
障害者の人にもよりますが知的や精神障害の方は通常の企業ではなく障害の方が働ける職場を作るのがいいと思います。刑務所のように作った物を売るとか内職。身体障害者の方はその具合によって普通の企業に短時間で勤務すればいいと思います。今は派遣があり健常者、障害者誰でも登録できます。今の職場もそうですが日雇い派遣で知的障害の方がくると不安です。実際につきまといや待ち伏せ（ストーカー行為）しているので。障害者を支援する＝健常者を守るになるといい。働けない人に無理に働いてほしくない。周りの負担がどれだけあるか考えて支援して欲しい。